
tempt - 月下草シリーズ06 -

秀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

tempt - 月下草シリーズ06 -

【Nコード】

N6727C

【作者名】

秀

【あらすじ】

あなたを、誘惑する。そう決めた。

「ね、キスしたい」

「……ナニ言つてやがる、トートツに」

こいつは時々唐突に訳のわからないことを言う。いい加減長い付き合いなのでその辺は重々承知している。それに対する対処法もいい加減身に付いている。それでも対処に困る場合というのはあるわけ。

例えばこんな月の明るい空間であつたりとか。

例えばこんな空気が気持ち良いときとか。

例えばそんな中で耳に心地の良い声が響いてたりするときとか。例えばそんな中でこんなふうに本当に良い表情をしてじっと真直ぐに見つめてきたりするときとか。

「なんかね、あたしたちつてタダレタカンケイらしいよ」

「…はあ？」

「恋人でもないのに一緒にいたりとか恋人でもないのに一緒にごはん食べてお酒飲んで夜明かししたりとか、恋人でもないのに家を行ったり来たりしたりとか、恋人いるのにベタベタしたりとか」

「…最後のはなんだよ、ベタベタって」

「あたしの言葉じゃないよ、言つとくけど。全部今日の昼言われたこと」

「…昼？」

「そ、わざわざ真昼間、うちの仕事場まで乗り込んできてね」

「……」

なんとなくわかった。その状況が。

わざと『誰が』とか『誰に』とか省いてのセリフ。

そんな喋り方をしているコイツが平素の表情ながら実はどのくらい腹の中が煮え繰り返っているのか、その具合まで。

「で、思っただけだね」

「……」

につこりと笑ってみせるその表情が、無意識に怖い。ので、あえて今は何も言わないでおく。とりあえずは出方を待つ。

「ヤだったのよ。そんなふうに言われるのが。そんな俗な言葉浴びせられるのがね」

「スマン」

「謝る人間が違う」

「……」

怖い。それは多分理性で感じるものじゃない。

多分、人間の原初の部分で感じているもの。

多分、人間にもほんの少し残っているものであろう、野性的な感覚。

「でね、ヤだったのよ。そうゆう俗な発想しかない女が。だから

ね、ヤだったの。それがあなたの側にいるのが。でね、それで思ったの」

「……」

見上げてくる瞳に、視線を、言葉を、奪われる。

これは本能的な分野で中枢を甘く痺れさせる、ナニか。

「あなたに、キスしたいなあ、て。キス、して欲しいなあって。すっごく」

月光に揺らめく水盤の如く。

自然と引き合わされたように触れた唇は麻酔のように心地好い痺れで。

その眼差しも、その声音も、その笑顔も、温もりも。

多分一生手放すことはできない。ふとそんな思いが一瞬心の片隅をよぎって、消える。

「キス、したい」

「……？」

「……………」

「珍しい。ユーワクにのってくるの？」

「のってきたくせに」

そもそも、ためらいはないのだ。触れ合うことに。

ブレーキをかけているのは別にモラルとか世間体とか後戻りできなくなる恐怖とかそんなもんじゃない。

ただ、触れ合わない場所にいるのが気楽なだけで、触れ合う関係は、多分面倒だから。色々。だから、「触りたい」と思うなら、思ってしまったなら、お互いに。

そしたらそれが自然なのだ。多分。

確証なんて何一つないけれど。

「キス、しよ？」

やわらかい声、耳に心地よく、するりと脳内にもぐりこむ、響きの良さ。鼓膜をくすぐる大気の振動。

すこし見上げてくる表情は、まるで子どものように無邪気で、やわらかくて、純粹で、細められた瞳は月光にとろりと揺らめいて、甘い痺れで視線を虜にする。

肘に軽く触れるぬくもりが、そっと這い上がって、腰に、背中に、

すべりこむ。

あつたかいな

そんな思いがちらりと頭をよぎり。

ためらいなく、そのぬくもりに身を委ねた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6727c/>

tempt - 月下草シリーズ06 -

2011年1月27日14時02分発行